

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079200202
法人名	有限会社 ヒューマンケア
事業所名	グループホーム 小春の家
所在地	福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地 (電話) 0947-32-7889

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年4月24日	評価確定日	平成19年6月20日

## 【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15人 常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算 12.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(平成19年4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 86歳	最低	74歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	江本医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は山すそから広がる住宅地の坂を上り、中ほどの小高い場所に建てられたエレベーター付の2階建てである。近隣にはお稲荷さんの社が祭祀されている。住宅が接近していないので、窓から外の景色を眺めることができる。敷地には利用者が野菜を植えている畑がある。事業所では利用者の人格を尊重し、個別的な対応や能力を活かした支援を心がけており、日常的に職員は意見交換を行っている。利用者にはそれぞれ担当者がおり、成年後見制度の説明や家族への報告書作成を行っている。屋外行事は月3回以上あり、その他にも利用者一人ひとりの希望にそって食材の買い物同行や図書館等、外出する機会が多く、利用者の楽しみとなっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果の改善点にそってミーティングを実施し、すぐに改善できるものは即改善している。さらに不十分であった資料の作成及び勉強会等を重点的に実施している。地域との交流促進等、改善に時間がかかるものについては十分に検討し、改善を進めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ミーティングで管理者・職員と一緒に自己評価にかかわり、事業所の取り組み状況を全職員で認識しながら実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、事業所の状況報告や評価結果、事業所で実施している勉強会に関する情報等を提供している。会議には行政、在宅介護支援センター、家族の他、他グループ事業所の代表が参加し、事業所の情報開示だけではなく勉強会的な要素を取り入れ、委員の意見等を聞いて双方向の会議になるようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>利用者それぞれの担当者が、毎月家族に本人の生活状況を郵便や電話で知らせている。家族の訪問時には担当者が日常の様子を伝えるとともに、家族の意見や要望等を聞くように努めている。意見、要望等があれば、介護計画責任者や管理者に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の情報を戸別配布することもあるが、自治会等に加入しておらず、地域との密接な付き合いが少ない。近隣に指定介護老人福祉施設があり、盆踊りがある時等は参加している。地域との交流はこれからの課題である。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自でつくりあげた理念は、利用者の人格を尊重し、個々に応じた介護を提供し、利用者が自立した生活を営めるように努めることを簡潔に掲げ、職員・本人・家族にわかりやすい内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝・夕のミーティングで理念の浸透を図り、その時々におけるケアについて理念に基づいたものかを日常的に話し、実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内や自治会には参加していない。火災訓練等のお知らせ等は戸別配布しているが、地域との交流はこれからである。	○	ホーム便りを戸別配布する等、地元の人々との交流に努めているので、今後は地域活動に参加する等して、さらに交流が深まるよう工夫して取り組んでほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	結果を踏まえてミーティングを行い、評価内容について勉強会・研修を兼ねて実施している。指摘された改善点について、管理者と職員ができることから具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果や事業所の取り組み状況を報告したり、学習会を行っている。感染症の流行時には、感染症についての学習会を実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を中心に行政担当者と連絡をとっているが、それ以外での協働等には特に取り組んでいない。	○	事業所が抱えている問題や事業所の運営等、様々なことが相談できるように取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者がマニュアルを作成し、制度についてミーティングや勉強会等で全職員に指導を行い、周知している。成年後見制度については、担当職員が家族へ説明を行った記録が確認できた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当者からの生活状況報告書を各家族に郵送している。また状態によっては電話による報告をしている。金銭管理は毎月の請求時に出納帳のコピーと領収書を添付している。家族訪問時に説明し、同意の署名をもらうようにしている。訪問のない家族には郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に管理者・担当者が家族と面談して意見等を聞き、担当者会議に反映するようにしている。現在、不満や苦情は寄せられていないが、いつでも意見を聞き検討する体制はとっている。	○	苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアを心がけているが、離職や交代等やむを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は性別や年齢等を理由に排除しないようにしている。意欲と適性のある人を採用し、個人が持つ能力を発揮して質の良いケアができるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は権利擁護事業や成年後見制度、身体拘束等の説明や勉強会を実施し、利用者の人格を尊重する取り組みと職員の啓発を行っている。職員の外部研修の参加はない。	○	管理者だけでなく職員も外部研修に参加し、取り組みの充実を図ってほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年、管理者は個人的に研修を受講しているが、管理者及び職員は段階に応じた外部研修を受ける機会が確保されていない。内部研修は管理者が実施して職員の育成に当たっている。	○	採用や職務年数に応じた研修を計画的に実施し、研修後は必ず内部で伝達研修を実施してほしい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会には属しているが、研修等に参加できていない。代表者や管理者は、地域の他の事業所の代表者と情報交換や勉強会をしている。	○	サービスの質の向上に向けて、代表者や管理者だけでなく、職員も地域の同業者と積極的に交流の機会を持ち、情報交換等に努めてほしい。
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	相談時に本人や家族が事業所を見学している。体験宿泊は実施していない。入居後は担当者が様子を見ながら、徐々に事業所の雰囲気に慣れるように言葉かけをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が作った野菜をみんなで食したり、洗濯物を干したりたたんだり、食材を一緒買いに行く等、それぞれ事業所での役割を持って、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族や本人からの情報が少ない時は、日常の何気ない会話や状態を観察して、思いや意向を把握するすように努めている。畑仕事が好き、入浴が一番に入りたい、ドライブに行きたい等々、できるだけ利用者の意向に沿って支援している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、家族の訪問時や電話で要望を聞いて情報を得ている。そのうえで担当者会議にて本人・家族の意向を踏まえ、管理者・看護師・各担当者で検討し、作成している。職員はミーティング等で介護計画内容を把握している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月2回、計画作成に当たって看護師も参加し、症状や状態が安定するまでは、その都度検討し作成している。毎朝・夕のミーティングにて状態変化等の確認を行っており、大きな状態変化がなければ、家族等と話し合い、4ヶ月に1回の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は、早期退院にむけて本人、家族、病院との連携を図っている。また、職員はリハビリ治療のための通院に付き添う支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診だけでなく、事業所のかかりつけ医での受診もできるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族、主治医、全職員で話し合い、全員で方針を共有して、支援している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関してはマニュアルを備え、個人情報の取り扱い等の勉強会をしている。日ごろより利用者の誇りを大切にされた接遇を実践するよう、ミーティング等で注意を促している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎食と朝のリハビリ体操や1時間程度の午睡などは全利用者が行っているが、その他の時間は自由に過ごしている。また、外出(ドライブ)は毎月数回実施しており、行き先の希望も聞いている。家族にも呼びかけて、実際に参加した事例がある。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は主に調理師が担当しているが、利用者の好みなどを聞いて献立作りに活かし、職員は利用者と共に同じ食事を摂っている。また、利用者は職員と一緒に朝食の買い物や調理の下ごしらえ、配膳や後片付けをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴支援の取り決めがあるが、利用者の希望を最優先し、いつでも入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会や季節ごとの行事がある。利用者は洗濯物干しや菜園の手入れ等、自分なりの役割を持てるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に配慮しながら、毎月数回、全利用者での外出(ドライブ)を実施している。また、利用者の希望にそって、図書館で本を借りたり、職員と一緒にスーパーへ朝食の材料を仕入れに行く等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は勉強会等で鍵をかけないケアを認識している。裏口に1箇所鍵をかけているが、ごみを出したり利用者や洗濯物を干すときは開けている。それ以外は帰宅願望のある利用者の居室前にあるため、状態が落ち着くまで施錠している。門や玄関の施錠はない。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器を設置して、使用方法等を理解している。避難訓練を実施し、マニュアル及び避難訓練の実施記録がある。緊急時や夜間は代表者及び職員の携帯電話連絡網を全員が所持し、連絡を取り合う体制である。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また非常食や水を確保してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が中心になり、利用者の嗜好も取り入れ、栄養のバランスや適切なカロリー摂取量を目安に献立を作成している。体調不良など、状態に合わせて個別に対応している。また、チェック表を作成して、毎日の食事の摂取量や水分量を確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりは花壇が作られ明るい。各ユニットはほぼ同様の作りで、浴室とトイレの前が広く、機能的である。採光や照明は不快に感じないように配慮している。食堂に続く居間はソファを配置する等、家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室エアコン、ベッド、クローゼットが設置している。利用者・家族により仏壇やソファ、身の回りの小物、筆筒等、馴染みのものが持ち込まれている。		

※  は、重点項目。